

せつが必要になりまして、維持管理面で非常に難しいのかなと考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7 渡部秀樹議員** ありがとうございます。

私も、みんなで築く安全・安心なまちづくりのために、現場サイドとしても議員としても知恵を絞りお話しさせていただきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

以上であります。ありがとうございました。

小関秀一議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位14番、議席番号11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 3日間の一般質問、さまざまなテーマで議論なり提案なりがありました。特に抱える課題、市長からあった施政方針にかかわっての新しい年度に向かって市民が幸せに暮らせるまちづくりに少しでも近づければというふうなことを思いました。

きょうはたまたま少し雪模様になったというふうなことでありますけれども、もう少ししますと新しい年度のスタート、あと区切りの卒業シーズン参ります。

きょうの少し雪降りを眺めながら天声人語なんか見てたら、目に入ったのが、ランドセルの話が朝日新聞には出てまして、何かと思ってよく読んでみましたら、国際女性デーだそうであります。

私も孫がことしの春、小学校に入学しますので、去年のお盆ころ、ランドセルを買ってけんなねべなど、じいじが買わんなねらしいなということがあったので、選びに行ったら、孫の希望は青だったんです。親とかうち、じい、ばばの希望は女の子なので赤だべというふうに思ってやったんだけど、負けました。希望を

聞いてしまったんです。

でも、これ、きょうの新聞を見ますと、男の子は黒か青、ままごとは女遊びという既成概念からずっと離れらんにくていたのが今までの男社会、女社会、そして子育てとかいろんなことさかかわってきてんのかなというふうにつくづく考えさせられっと、色の問題というか、そういうことばかりでなくて、例えば議員も女の方も議員になってやるわけだけんども、この議場に女性の管理職については女性の方が一人もいやんねえというのは、やっぱりこれ異常なんだべなというふうなことを3日間、そこさずっと座らせてもらって感じたところであります。ぜひ、新年度に向かってこれから予算、そして新しい人事の部分が始まるわけでありますので、十分に熟慮というかお願いをしたいもんだなというふうに思います。

施政方針のポイント、そして先ほど地方創生の話も渡部議員のやりとりの中でもありましたけれども、やっぱり人の流れをつくる長井創生の施策が29年度のポイントだべなというふうに思います。その中で公共施設のあり方の議論やら、産業の支援のあり方やら、さまざまな広がりの中で将来に向けての施策の展開がされていくんだべなというふうにつくづく思っておりますので、具体的には、大きく分けて観光、あと就農の問題、通告しております産業の問題等々でお考えをお聞きしていきます。

まず最初に、長井版DMO、長井観光局、ちょうど設立して1年になります。3月22日設立だったようですが、新しい商品開発なり、特に春からの道の駅の開設等もきっかけにして、さまざまな提案をなさってるなというふうなことで、しかも、特にインターネット含めて発信が新たというか、非常に変わってきたなというふうに時々見させていただいております。

長井を何で売っていくんだというふうな、観光というのは非常に難しいポイントだというふ

うに思えるし、私んだもほかの都市へ行ったとき、意外と期待外れだなとか、意外と感動があったなとか、視線というか目線がいろんな分野あるわけなんで、例えば山さ登ったときと食べ物を食べたときと、いろんなポイントが違うわけだけんども、長井の発信の仕方は人もあり、暮らしの風景もあり、また町並み、山並みの風景の発信もあるというふうなことで、見せていただくと本当に充実してきたというふうに思います。

法人の運営の中で苦勞もいろいろあったりするわけですが、現在、1年間たって法人のスタッフ、あと市民の、これは市民記者も含めてになるのかもしれませんが、案内人と称して情報発信していただける方、時々提案された方の名前まで載ってるわけですが、その点について、報告をいただければなというふうに思います。市長からです。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 小関秀一議員のご質問にお答えいたしますが、まず議員からは長井版DMOの進捗状況と課題はということでご質問いただきまして、ありがとうございます。

ただ、議員から、ただいまの件も含めまして、事前にいろいろ私どもからお願いしてるんですが、最終的な中身については先週の金曜日の夕方でございます。私どもといたしましては、時間外をして管理職がこの原稿をつくんないけなくなるということで、やはりここはある程度、私どもの状況も理解していただきたいというふうに思います。

ただいまの質問については、現在の法人のスタッフと案内人の人数ということだと思いますので、そちらの質問ですので、最初想定してた原稿はございませんでした。ただ、担当課のほうで急遽、夜とかつくりまして、けさ、私、預かりましたので、具体的な数字等についてお答えを申し上げたいと思います。

現在、法人スタッフでございますが、事務局長1名、係長1名、派遣職員2名、臨時職員2名、計6名でございます。派遣職員2名については、市の商工観光課のほうからの派遣職員でございます。また、案内人につきましては、黒獅子の里案内人ということで、こちらの組織の会員の方は、1月30日現在で30名ということでございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 概要版について、おくれたことについては申しわけありませんが、一問一答でやりますので、大方の中項目まで、そしてそれ以降の部分については、私の場合は月曜日まで事務局に報告しておりますので、いろいろすり合わせの部分の点があるかと思いますが、お答えを願えればありがたい。

先ほどから長井観光局の実績については、この1年で非常に実績が上がっているなというふうに思っているところですし、また、先ほど来、つい最近、2月の中旬には観光大使の創設をされたということで、さまざまの部分、場面場面で、長井のPRを、名刺をつくりながらPRをしていくというふうには、工夫が積み重なってきてるというふうなことでは大変いいことなんですが、ホームページ等のアクセス数についてはどの程度、把握をしておられるのか。これも私んだ市民としては、市民もみずから見せてもらうという部分もあるわけですが、やっぱり広く観光局を設立した成果というのは、そういうところに具体的な数として出てくると思うんですが、その辺の実績についてはどう把握されてます。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ホームページのアクセス数でございますけれども、平成28年の4月、観光局がスタートしてからことしの2月末までの現在で14万4,881件ということで、この観光ポータルサイト、平成27年度に構築いたしましたけども、

その一昨年に比べて4倍から5倍の訪問者になってございます。

観光局としての認知度はまだまだ低いと思っておりますが、企画商品の企画、実施や観光ポータルサイト、パンフレット、ガイドブック、テレビ、ラジオ、雑誌、新聞等による情報発信や視察の受け入れ、そして営業活動の成果が少しずつではございますが、出始めていると感じているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** ありがとうございます。

14万件というと、今までよりは説明のとおり四、五倍にもなっているというふうなことで、その要因はPRの表現の仕方とか、あとロコミとか、やっぱり広がる要素というのは微妙なところで広がっていくという、何かそういうネット社会の危ないところと大変いいところとあるわけで、そういう面ではかなり成果が上がって来始まったし、さらにこれからさまざまな長井市の取り組みのPRの拠点にされるということでは、長井市本体のホームページという、市役所のホームページもさることながら、リンクして見られる情報発信の材料として本当に期待をしたいなというふうに思いますが。

この1年、今、市長からあったスタッフ、現在6人ということで、あとプラス30人の案内人のお力で、企画の商品、そして特に市外者からのいわゆる長井市に増加というかな、そういう旅行商品などなどを利用しての入り込み数と、局として把握されてる部分があるとすれば報告をいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

山形長井観光局の旅行商品の造成数が54本でございまして、この旅行に参加いただいた方は2月までに、企画旅行商品ですね、2,207名でございまして。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 今までこういう商品と
いうか旅行の商品については山形鉄道等々の強
力も含めながらということでありまして、
2,000人も54本の商品を利用して長井に注目を
してもらって、実際に足を運んでもらったとい
うのは、また新たな定着型の観光に結びつける
ようなスタートを切られたのかなというふうに
思いますが、法人としての経営について
ちょっとお尋ねをしたいんですが。

DMOの経営というふうなことについては、
会員制、また行政からの補助金等、そして実際
に事業をして収入を上げて事業収入で運営をし
ていくというのが基本だというふうに思います
けれども、その辺の募集されたという現在の会
員、会員収入等について、あと、事業収入をど
ういうふうにこの1年間で、先ほどの入り込み
数等を含めて把握をしておられるのか、お尋ね
をします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

山形長井観光局の法人の経営についてでござ
いまして、現在、会員数が58名でございまして、
会員収入が57万円でございます。補助金につき
ましては、運営費補助ということで市のほうか
ら主にいただいております、611万6,000円、
それから団体のお客様向けのバス補助、これに
ついては9月補正でもしていただいて400万円、
それから地方創生推進交付金の事業が604万
8,000円です。

収益事業の収入は、2月までの売り上げ合計
では、本当わずかなんですが、702万4,000円と
いう状況でございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** それで、それに伴って
ですが、特に管理費の中で人件費、あと役員報
酬等の支出の部分についてはどういうふうな状
況になっておるのか、お尋ねをします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** まず、人件費の管理費でございますが、これはスタートしたばかりで、まずは収益見込めないということから、全て地場産業振興センターで管理して、振興センター内で支払っているという形になっております。役員報酬は全て無報酬でございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 地場産の協力というか、これから行政の支援のあり方、規模等も含めてでありますけれども、1年間で事業収入についてはなかなか今後の課題だということでありまして、この件については役員報酬は出していないということでもありますけれども、人件費の法人としての完結できるような努力というのは当然、事業が拡大して収入もふえていけば賄えるというふうなことで考えて事業展開をしていくということによろしいのか、市長に伺います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 山形長井観光局については、平成30年度に法人化を目指して準備を進めておりますが、法人化になったとして、この収益だけで全てを賄えるというのは相当時間が経過しないと難しいと思います。

ただ、観光協会なんかは、これ全て市の補助金と委託料なわけですね。ただ、この山形長井観光局は、まずは私ども長井市だけで設立の準備を進めていますが、できればフラワー長井線の沿線の2市2町であったり、あるいは西置賜の飯豊温泉も含めた、そういった広域であることが望ましいと思いますが、基本的には各市町のほうからさまざまな委託を受けて観光旅行商品を造成して、地域にいらしていただいた観光客が地元にお金を落としていただくことによって補助金として私どももらうという形でないと、旅行会社といったらかなり難しいと思いますので、考え方としてはそういった収益を目指していきますが、それだけで賄えるというのは相当先であろうというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 今、市長からあったように、商品開発したりで実際には法人の経営を自前でできるようには、当然、時間もかかるわけですし、ほかの広域の営業含めて時間かかるということでもありますので、特に長井の観光を稼げる観光にしたいという大きな目標が施政方針の中でも言葉として出たし、さっきの地方創生の参事のほうからも、そういう長い目で稼げる施策を行政が提案なり支援をしていくというふうなことを考えると、時間が必要だべなというふうにやっぱり思いました。

今、市長から平成30年に法人化をするということでもありますけれども、観光庁のホームページに全国のDMOの設立なり準備を進めてる団体の一覧があったわけですが、特に今、全国で観光、地方創生の目玉は観光に見えがちでありますので注目してみますと、まだ準備中という欄にも長井の観光局って載っていないんだけど、山形県の場合だと山形市、上山市、寒河江市あたりが載っていたと。

これは法人化になんねえといわゆる認知されないということでもいいのか、その辺ちょっと私、わかんなかったんで、確認させていただきたいんですが。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 観光局の件については、登録にまだなっていないということでございますが、観光庁のほうに申請するというのを28年度中に届け出るという準備をしておりますので、今、準備してますよということも届け出しなきゃいけないんですね、それを28年度に、市の職員を派遣しましたので、その中で今、その準備を進めていると、したがって、29年度にならないと載ってこないんだろうと。

30年度が目標でございますが、それを例えば広域でやったらちょっともう少し時間もかかるというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** なるほど。私はちょっと誤解してたんですが、その付近のいろんな情報だと、特に県内だと寒河江市のDMOの情報なんか、経営の内容も含めてですが、収支の、出てたので、長井って観光局までつくって、法人近しいえども、ほとんどそういう面での公開というか、なってないんだなというふうに、残念だなというふうに勘違いしてました。

ぜひこれから、全国、国際、それこそ世界中で発信できるような、営業もできるような観光局に発展をしてもらいたいなというふうに思ったところであります。

ちょっと時間過ぎましたので、地方創生の2番目であります、新規就農、移住定住促進に向けた事業を29年度していただくというふうなことで、特に農業分野の新規参入なり新規就農支援等に、12月にも基金の創立も含めての準備から始まって、29年度、具体的に支援内容等がスタートするということでもありますけれども、長井に参入を紹介する分野というのは、例えば農業分野、あと加工分野も含めてでありますけれども、どういうアピールをしていくのか、こういう分野が、農業分野の中で新規参入の窓口がありますよというふうな部分についてはどういうふうな想定をされているのか、市長にしか私、指名してないので、もし可能であれば担当にも振っていただきながらお答えをいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

東京で開催されました新・農業人フェアにおきまして、49名からアンケートにお答えをいただいております。

その結果、就農として農業法人等へ就職したい方が18名、37%、そのほか、独立希望が12名、24%、未定が21名ということでございます。明らかに若者の希望は農業法人等での就農希望が

多い結果でございました。

また、何をつくりたいかでは、野菜が28名で57%、果樹が13名、水稲が11名でございました。水稲、米という方は少ない結果だったようでございます。

新規就農者が希望する作物への対応は、それぞれのケースが考えられます。米づくりでは、農業法人等へ就職いただく道が早道であろうと、また、野菜を希望される場合は、施設園芸等の周年農業により独立の道がございます。果樹を希望する場合は、後継者のいない果樹農家を引き継ぐようなケースが想定されるということで、いずれにしろ研修前の農業体験により自分の望みを確立していくことが先決でございまして、長井市でこの分野をやってほしい何ていう考えは、これはその個人の考えですんで、私どもで雇用するわけじゃないわけですから、そういったことはございません。むしろ農業法人、あるいは農家、個人で受け入れてもいいですよというところのご指導とか、あるいはアドバイスによって、その後に自分のつくりたい作物とか決められるんだというふうに思います。2年間、農家での研修や技術や人脈等を形成し、農業法人等へ就職するか自分で独立するかを判断することになると思います。

農業法人等への就職、あるいは独立の両面から支援を予定しておりますが、研修をお引き受けいただけます受け入れ協議会の皆様と協力して、新規就農者の希望に即してまいりたいと考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 市内農家にも春からの作付の説明、昔でいうと細目書配布等あったり、その関連の資料の中に新規就農、特に市内の農家に配られた文章でありますから、対象は親元就農等の説明というふうに、それだけではないわけですが、というふうに理解しますが、29年度から国の就農支援については農業次世代人材

投資事業ということで名前が変わってくるというふうなことでありますけれども、長井市は基金を利用して国の施策の上乗せをするという施策を予定しているわけで、この事業が国で新しい名称と中身について変動がないのかどうか、それにあわせて長井市の上積みする支援策について変動がないのかどうか、おわかりのことがありましたら説明いただきたい。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 質問項目にはいただいてない質問ですので、私はちょっとその辺は正確なことをちょっと答弁申し上げられませんが、産業活力推進課長のほうからできる範囲で答弁させていただきます。

○**渋谷佐輔議長** 横山照康産業活力推進課長。

○**横山照康産業活力推進課長** 私からお答え申し上げます。

新しい制度については、ただいま示されておる過程でございますので、私どもの制度につきましても予算をただいま要求させていただいているところでございますので、両方をすり合わせをこれからさせていただいて調整を図ってまいりたいと存じます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 今の説明で、当然、予算の審議中だということで、国の事業とあわせて市の支援事業についても検討していく、進めていくのだということでありますけれども、具体的に今まで何人か新規就農、親元就農も含めて支援をしてきたという経験があるわけで、今現在、例えば都内のフェアに出向いて、先ほど市長からは49名のアンケートに答えていただいた人がいると、これは即希望どおり長井にござるといふふうに決まるわけでは決してないわけだけども、今まで私の記憶だと7人ぐらい新しいこういう制度を使った就農者で埋まっちゃうんだべなというふうに思っているのだけども、今、来年度、予定者、農林分野で新規就農、

予定をしながらこういう支援策できるような方というのはどのぐらい、今現在把握をしておられるのか、これは予算はある程度大枠でとってというふうになるわけですが、何人ぐらいおられるのかお聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ただいまの質問も事前に通告がなくて、それらについてもちょっと全体な趣旨がわかればお答えする部分もあるんですが、断片的なご質問でございますので、担当の産業活力推進課長のほうでもしわかる範囲で、失礼ですが、答えさせていただきます。

○**渋谷佐輔議長** 横山照康産業活力推進課長。

○**横山照康産業活力推進課長** 私からお答えさせていただきます。

新規ということですのでよろしいんでしょうかね。新規といたしますと、ただいま新・農業人フェア等で募集をいたしまして、体験をされる方が現在5人の方が長井で実際体験中でございます。そういった方の非常に意欲が高くて、来年度から研修を受けたいというご希望がありますので、来年度そういったことが実現すればお一人の方は可能性があるということでございます。

なお、現在、給付金をいただいている方が6名、ご夫婦の方が一組ということなので、都合8名の方が現在実施中ということでございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** いずれの職業においても、地元に残ってもらって仕事をし、そして家庭を築き、そして子育てをしてというふうな、定着を目指す施策として重要な部分でありますし、この農業、農地を守る分野というのは地道な世界だなというふうに思っております。

特に半農半漁といいますか、実際に今、農業している人でさえも兼業収入を得ながらしてる人もいるし、また、新たな動きとしては、定年を迎えてからも農業するという人も新しい動きとしてあるわけで、さまざまな長井市の産業の

芽が出つつある中での今回の支援については期待をしたいなというふうに思います。

時間過ぎましたので、次に大きな2番目の①観光交流センターの農産物の直売と、菜なポートの運営方針についてお尋ねをいたします。

この間、宇津木議員からこの件については少し触れられましたので、それから不明な部分だけちょっとお尋ねをしたいんですが、生産者については説明を受けたというふうなことでありました。売り上げ目標とかさまざまな新しい道の駅の中での直売所の運営のやり方とかというふうなことあったわけですが、加えて、今現在の菜なポート、仮称南店を存続するので、それについてはそちらのほうもぜひというふうなことでの説明を受けたというふうなことでありました。

どなたかの質問の中で、直売所のあり方についてはタウンセンターの跡地の問題もあるので、市長からは、とりあえず中央の近くの人の買い物の利便性を考えて、仮称南店を存続していくのだというふうな説明を市長からもいただきましたが、今現在行っている菜なポートの建物、敷地の借地料というかテナント料について、あと人材、スタッフ、道の駅に移る部分の直売所のスタッフも含めてでありますけれども、特にきょう、今回は南店をどう存続させていくのかというふうなことについて、市長から考え方と、特に借地料、市の予算として設定をしていくのかどうかについてお聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** この件もちょっとご質問の中に、後の質問でもそこはなかったと思うんですが、まずこのたびの予算には計上しておりません。

それから、借地料については、借地料じゃないですね、賃借料ですよね、賃借料については後で商工観光課長から答弁をいたさせますが、いずれにしても、この南店というのはやっぱり地元の中央地区の買い物が困難な方のため

の、これ今泉議員とか梅津議員からもあったし、宇津木議員からもいただいたことに関して、やはりこれは利用者の方も多いので残そうということでございます。

売り上げは当然落ちると思います。それから、菜なポートの観光交流センターのほうのお店のほうは客層がかなり違ってくると、南店については大部分が地元、中央地区を中心とした市民の皆様であり、観光交流センターのほうは市民の皆様ももちろんいらっしゃいますが、半数以上は近隣、あるいは遠くからいらっしゃる方ということも考えられますので、そういったことを想定しながら、まずは厳しい経営にはなるかと思いますが、さまざまな面で努力してまいりたいというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 手塚慶一商工観光課長。

○**手塚慶一商工観光課長** 議員からのご質問でございますけれども、現在の菜なポートの賃借料の件でございますけれども、現在、月額23万円で賃借しておりまして、賃借料については現在、地場産業振興センターのほうで貸し主のほうと交渉中ということでございます。

○**渋谷佐輔議長** 小関議員に申し上げますが、通告の範囲内で質問をお願いします。

小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 通告している菜なポートの、いわゆる現在の菜なポートの運営方針にかかわる部分でありますので、一問一答でさせてもらったというふうに私は理解しておるんですが、これ以上難しい部分があるのかなと思いますので。

それでは、産業振興の異業種連携の施策についてお伺いします。

29年度、防災ラジオ、去年の10月に市民アンケートで防災ラジオの必要の有無のアンケートをとられたということで、市民世帯の約半分が欲しいと、あのときのアンケートの中身については1,000円程度の有償というふうなことが書

かれておったようですが。その後、長井市で防災ラジオってまだ配んねなべかというふうな声もあったんですが、あれはあくまでもアンケートだったというふうなことで、これからどういうふうな市民に配布するのかというふうなことを説明しておったところ、ぜひ市民には配布をしたいという方針を出されたということであります。

かねてから市長は、異業種連携でぜひ市内の業者さんと連携をした形で製造し、そして市民の方に配布できないか検討していくというふうなことをおっしゃっておられましたので、防災ラジオの地元製作、そしてメンテナンス等については可能なかどうか、確認をさせていただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 議員おっしゃることにつきましては、一昨年、市内のある製造業の会社社長に実物をお示ししながら、ちょっとこれ見てくださいと、こういったものできないでしょうかと、長井の製造業の皆さんで力を合わせてということで具体的に検討いただきましたが、残念ながら結果は、これは採算とれないということでございました。

その際にお願いしたのは、まず私ども全世帯1万個ぐらいのロットではお願いできると、それ以降、やっぱりつくってところがあるわけ、ちょっとその中の特許的なところがあるのかどうかちょっとお聞きしたら、強制のスイッチ入る部分で何かいろいろあるんだそうですけども、1万個に限らず、今度、飯豊町さんもなさる、あるいはちょっと性質は違うんですが、小国町さんでも配布するというふうなこととか、多分これから広がっていくので、その際は私どもとしても声を、お手伝いをさせていただくんでいかがでしょうかということだったんですが、厳しいと、難しいと、採算とるには難しいなというようなことでございました。まずはこれが

結果なんです。

市内の製造業が得意とする分野は、主に部品加工や製造、設備、設計、製作といった分野でございまして、自動車関連企業等からの受注実績もあることから、一流の技術を持っている会社が多いということは間違いございません。防災ラジオを構成する、例えばある部品や防災ラジオを生産するための設備、器具等であれば市内製造業の技術がマッチングする場合があるかもしれないと考えられます。ただし、防災ラジオ自体は既にさまざまな企業が商品としてラインナップしておりまして、新たに防災ラジオの製作販売に参入するメリットがあるかの判断は各企業さんの判断となります。

また、長井市内の地域内だけの市場規模とすると、到底採算ラインに乗らず、地域外での販路があるかといったことで判断されるはずですので、最初申し上げましたとおり、実際は厳しいという判断をされたようでございます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 大変残念だなというふうには思いますけども、経営判断というか販路、製造個数の問題とコストを判断されてというふうなことでありますので、例えばだけども、メンテナンスも必ず必要になってくる、電池の入れかえ程度は誰でもされるわけだけでも、故障したときどうする。

市民の方に、私は前に研修したとき、半額補助で市民に5年間リースして貸すと、その後は使っていていいよというふうなやり方でしておるところも聞いたわけですが、今回は希望者には配布、無償で配布というふうなことです、メンテナンスについては全部個人負担というか、個人の責任であとは修理なりをするというふうなことでの考えでいいのか。例えば、製造メーカーを含めての、当然、保障期間とか製造された方のメンテナンスというようなことも可能なので、その辺どういうふうにご考慮されるの

かちょっとお聞きをしたいんですが。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** これは別の質問になると思うんですが、一般質問の中でお答えした内容では、全部、全戸に希望者に、ただし、お貸しするという格好になります。基本的にはお渡しするっていう格好なんです、それが故障したという場合は別なものをお渡しするということになります。ただし、故障が何か不可抗力で壊れたのか、あるいはさまざまな理由があるかと思えますけども、通常は非常にシンプルなものです、精密な機械ではないというふうに思ってますので、その場合はメーカーさんに修理をしてもらうというのが原則だと思います。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**1 番 小関秀一議員** 了解しました。

多くの物づくりの工場とはいえども、専門分野、それぞれの得意分野があるわけで、今、市長からもあったように、ロット数と採算を考えれば非常に難しい課題だったのかなというふうに思います。

次の農業用のロボットの開発についても、結局、同じことが言えるのかなというふうには思いますけれども、開発とか、あと、例えば特許とかというふうな部分についていえば、会議所のメンバーの方が農機具メーカーと提携されて開発をしようというふうな動きを今、長井市内でもあるわけで、例えば施設園芸の分野ではかなりロボット化が進んでるわけですが、土地利用型の大型なトラクターやコンバインのいわゆるデータを管理する部分とか、あと、ドローンを利活用した製品の設計の仕方とか、水管理とか、肥料の作物の状態を航空写真から見るとかというふうな部分も含めて、ロボット開発というのは非常に注目されてるなというふうに私は思ってるんですが、これについても商工会議所、農業者、そして行政が仲立ちをしながらプロジェクトで新しい産業分野の提案型の開発を

手がけられないのかなというふうに期待するわけですが、その辺、新しい産業、異業種連携についての施策として市長、どういうふうに考えておられるのか。ぜひ取り組んでいただきたいなというふうに思っているんですが。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 小関議員おっしゃるのはごもつともだと思います。それで、重要なのは、今、長井市内にある製造業の皆さんというのは、やっぱりメインの仕事ってもちろんありますし、そこで収益を上げて会社を運営しているわけですから、新たな研究分野なんですね。そうしますと多額のお金もかかるんですが、研究開発に、一番の肝心はそういった技術者、それを進められる人がそれ専門にかかるだけの体力のある会社があるかということ、かなり厳しいということでございまして、したがって、そういう人材と、あとお金の部分は私どもが支援させてもらったり、あるいは国等の補助なども受けて取り組むということは可能ですが、そういった人材を、研究開発専門の人材を1名や2名じゃだめなわけですから、ある程度グループで確保できるかというのが一番の課題だと。

したがって、長井市のいろんな頑張ってる会社、いろんな新規の分野で商品開発されている会社もありますけども、それは今の業務の延長線なんです。ところがロボットといいますと、それでありわかって失礼ですけども、新たな売り上げの増加にしている会社というのは余りありませんので、その部分が一番の課題であろうと。

なお、そういったことでもございますし、商工会議所にも働きかけまして、ぜひロボット分野でできないかということで、私ども内部で検討したことがあります、結局は人の部分が一番肝心だということでございました。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11 番 小関秀一議員** 実際に具体的な会社名

は上げなくてもですが、興味のある経営者、あと社員も含めてさまざま、具体的には農機具メーカー等と研究さ入ったり情報交換をやっているというふうなことがありますので、ぜひそこら辺の支援と、あとそこにやっぱり実際にかかわって必要とする農業者の声なんかも必要でないかなって私思うんで、ぜひその辺のプロジェクトの立ち上げなんかも検討していただければというふうに思います。

今、市長から今までも検討してみたんだけどというふうなことです、新しい長井の産業の目玉というふうなことも含めて、人材育成も含めて検討いただければというふうに思います。

あと、最後でありますけれども、行政委員会の一つであります農業委員会が年度を越しますと組織改革に伴って大きくさま変わりすると、大きくというのは、メンバーとか人数とかというふうなでなくて、まずとりあえず一つは中味であり、公選制から市長任命のメンバーをそろえての委員会、行政委員会になるということです。

これについては、私も委員したことあるし、現会長、鈴木会長も一緒に農業委員会のあり方とか、組織改革の中での農業委員会が果たすべき役割、あと課題というふうなことあって、特に公選制でなくなると公平性、公明性、あと透明性が非常に不安になるんでねえかというのが、私みずからが課題整理してきた部分なわけけども、それとあわせてですが、特にさっきちょっと前段で触れた女性の方々の支援、女性農業委員の選出の方法について、今回の組織改革に伴ってどういうふうな課題整理をされて、あと進み方として、もう時間ないわけけども。

いや、あれですよ、改選まで時間ないんだけど、地域まで説明をしておられるのか、お聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 鈴木榮一農業委員会会長。

○**鈴木榮一農業委員会会長** お答えいたします。

小関議員のご質問、そのとおりでございます、我々、国の改革の方針に沿って仕事を進めているということが基本でありますので、ひとつその辺はご理解していただきたいと思います。

改正農業委員会法の第8条第7項で、市町村長は、農業委員の任命に当たっては、年齢、性別などの著しい偏りが生じないように配慮しながらという規定で、青年女性の積極的な登用を求めるとなっております。

しかも、その趣旨は年齢や性別を問わない幅広い意見を募り、農業施策に反映させるのが狙いとなっております。

長井市では、ことしの7月に改選を迎えますが、私どもも委員会で議論を重ね、制度改正に向け任命権者となる市長と意見交換を行い、市長と方針を同じくして、若手や女性にできるだけ参画いただけるよう、現在、委員会、委員それぞれの地元で機運を高めるよう努力を重ねているところでございます。

また、市長が施政方針で掲げる市民総活躍社会・長井は、安倍内閣の一億総活躍社会と通ずるもので、新法の考え方もこれに合致するものでございます。

特にこのたびの農業委員会改革の中でぜひ実現したいのが、複数の女性農業委員の実現でございます。3月11日には女性農業者が一堂に会する研修会が予定されており、ぜひこの場でもお願いしたいと考えております。議員各位にもよろしくご協力お願いしたいと思います。

長井市では、国の法律に先駆け、これまで議会推薦という形で女性農業委員の実現には、市議会には特段のご配慮をいただけてまいりました。議員ご指摘のとおり、女性、若手のさらなる積極的な登用は、長井市の産業振興、農業活性化施策に欠かせないものと私は考えます。よき伝統の上に立ち、できるだけ多くの女性に若手の方が応募に応じていただけるように努力を重ねてまいりたいと存じております。よろしく

お願いします。

午後 3時01分 散会

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** ありがとうございます
た。

今、会長からあったように、農業委員が市長の任命に変わるということとあわせて、農地利用最適化推進員という委員が新設されると、長井市においては6名ということで、これの割り振りについては各地区1人ずつかなというふうに想像するわけですが、この推進員の報酬、若干年間2万円というふうな予定だそうですが、定数等については非常に私、疑問があるんです。

つまり、農業委員が17名いて推進員が6名しかなくて、農業委員以下の報酬で、例えば、理由を申せば、1地区3人ぐらい農業委員いたしたら1人推進員がいて、全地区、推進員、目配りをして報酬は全然違うと。あと、農業委員の総会さ、推進員は出る、質問終わったから後でお聞きするわけですけど。

そういう任務を考えると、非常に責任の重い部分が、この推進員さこそ出てくるなというふうに私は心配をしております。ぜひ手立てとか組織のあり方等については、今後とも会長なり他の農業委員と連携をして検討を重ねていただければなというふうなお願いを申し上げまして、質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたします。ご協力ありがとうございました。